



背景・目的

- 船舶からのCO2排出削減対策として、水素の利用が有望であるが、現状は小型漁船や大学等の小型実験船で水素燃料電池の実証事業が開始された段階である。
- 今後の水素利用拡大の方向性としては、旅客船や大型船への適用が期待されているが、反復的、継続的に運航された実績は無く、長期的な耐久性等の技術的に解決すべき課題が多数存在すると考えられる。
- 今後、船舶における水素利用拡大にあたり、上記課題を解決するための**技術・CO2排出削減ポテンシャル、事業性等の検証が重要になる。**

事業スキーム

委託対象：民間団体等  
実施期間：3年間（平成30年度～32年度（2020年度））

事業概要

- **利用拡大の指針の策定**  
今後水素を利用した船舶の導入が有望視される船種、大きさ、航路等を整理するとともに、導入によるCO2削減効果がどの程度見込まれるのかを総合的に調査し、利用促進のための各種技術的な課題・対応策や経済性などを検討し、船舶における水素利用拡大に向けた今後の指針を策定する。

期待される効果

船舶における水素利用拡大の推進により、エネルギー起源CO2排出の削減に貢献する。

事業目的・概要等

イメージ

<現状>

船舶での水素利用は燃料電池船の実証試験を開始



漁船



大学の実験船



<今後の利用拡大の方向性>



- ✓ クリーンで低騒音な燃料電池の利点を最大限に活かせる**旅客船への適用**
- ✓ 燃料消費量が多く、CO2削減効果の高い**大型船への適用**

船舶における水素利用ロードマップの策定